

第36回 性の問題を考える会

日時 2026年8月2日(日) 12:50~16:10 (開場 12:20)
(第一部 13:00~14:30、第二部 14:40~16:10)

会場 大府市石ヶ瀬会館 〒474-0035 愛知県大府市江端町4丁目1

対象 医療、福祉、教育など子どもにかかわる仕事に就いている方
※自治体関係者の参加も歓迎いたします

定員 約100名

参加費 無料

申込方法 下記の Google フォームからお申し込みください (2026年7月20日まで。先着順です)

<https://forms.gle/kKYVgAkWu1K7Aya8>



第一部 13:00~14:30

性加害再犯防止への挑戦—依存症的側面と認知行動療法を用いた介入の実際—

【講演者】公認心理師／臨床心理士 中島 圭太 氏

2019年より、あつた白鳥クリニックにて勤務。同年に性加害者治療プログラムを立ち上げ、現在もその運営・実施を主導。依存症、加害者および被害者の臨床に携わる。

【主な活動・専門領域】

- 非行・犯罪、依存症、トラウマなど。
- 司法・矯正領域の支援：保護観察対象者や刑務所出所者、およびその家族への心理的サポート。更生保護従事者を対象に現場で直面する困難事例への対応や、対象者との向き合い方についての研修。
- オンライン相談・コンサルテーション：加害者および被害者へのオンライン支援に加え、対人援助職を対象としてケース相談。

【講演者より】

昨今、盗撮や痴漢といった性加害のニュースを頻繁に目にするようになりました。社会的な議論の多くは「いかに処罰するか」という点に集中しがちですが、実際には、盗撮や痴漢には依存症が伴うケースが多く、処罰のみで再犯を防止することは困難です。

本講義では、性加害者に対する治療的介入への懸念や否定的な意見にも向き合いながら、なぜ今、処罰と並行して治療的介入が必要なのか、その社会的意義について解説します。

また、心理学的なアプローチに基づき、適切なアセスメント(評価)から、再犯率を下げるための認知行動療法(CBT)を用いた具体的な介入用法についてお伝えします。

性の問題を「今」だけで終わらせない—緊急介入から中長期的な支援—

【講演者】名古屋市中央児童相談所 丸山 洋子 氏（医師）、大野 由香里 氏

【講演者より】

社会的養護において性の問題が発覚した時、支援者も否認や無力感、怒りで感情が揺さぶられる中、現実的な「今」の対応に追われがちです。ふと、立ち止まってみると、この対応で良かったのだろうかという不安や、処遇に関する疑問が出て来ることもあって当然です。

そこで、今回は、施設でこども間の性問題が起きた時の短期的な対処（被害開示の最初の聞き取りやこどもの分離、司法面接）と中長期的な対処（事件化や家裁送致、入院）のモデルを示しつつ、その間のケア（プログラムなど）との連携について、名古屋市中央児童相談所の実践をもとにお伝えします。

～お問い合わせ先について～

電話でのお問い合わせの場合：児童養護施設 クローバーライト（担当：青山）0569-47-6877

メールでのお問い合わせの場合： a-sakiko@chita-gakuen.or.jp

共催：楓の丘こどもと女性のクリニック／性の問題を考える会